

みと好文カレッジ情報

～生涯学習社会の構築を目指して～ Vol.7

平成27年3月31日発行
発行所 水戸市教育委員会
みと好文カレッジ
〒310-0852
水戸市笠原町 978 番地の 5
水戸市総合教育研究所 3 階
電話 029 (303) 6602
F A X 029 (303) 6601

M a i l koubun@pluto.plala.or.jp
U R L
<http://business2.plala.or.jp/koubun>

食の安全をおいしく体験：家族の健康は料理の力

「さがけ塾」塾生企画講座（全4回）



環境にやさしい食生活

我が家の食卓を見直す



食の安全とエコロジー

学校給食に学ぶ（給食試食）



楽しいエコ・クッキング

かしこく・おいしく（調理実習）



よいよい食生活

MY エコ・スタイル宣言

みと好文カレッジは…

市民の皆様の生涯学習を応援します。何かを始めてみようと思ったとき、何をするか迷っているとき、一人では第一歩を踏み出すのに勇気が必要です。こんなときに、みと好文カレッジがお手伝いします。各市民センターの定期講座情報や「あなたも師・達人制度」からの講師紹介など、生涯学習の羅針盤になればと思います。

みと好文カレッジの主な事業紹介



親業訓練講座

妊娠期の母親、乳幼児から高校生までのお子様を持つ親を対象に親と子の間に心のかけ橋を架けるためのコミュニケーションの手法を学びます。

～「参加者の声」～

体験型の学習(ロールプレイ)を繰り返し行うことで、子どもとの接し方に自信が持てるようになりました。



入門コース 『子どもの気持ちがわかる?』



ほっとひとほ夢らんど

家庭教育支援事業の一環として、1才6ヶ月から3才までの子どもと親を対象に様々な講座を通し、育児に対する悩みやストレスを解消し、子育てを楽しむ家庭教育とあわせて子育て支援を推進することを目的としています。平成27年度は、5月に募集を行い、6月～翌年3月まで毎月第1木曜日と第3木曜日の2コースで開催する予定です。



『遊んで学ぼう①七夕』



茨城しぐさ

「おもてなし」という言葉があるように、日本では古来より他人への気配り、思いやり、心配りが大切にされてきました。

茨城しぐさでは、「相互扶助」や「共生」の精神を理解したり、「お互いが仲良く、気持ちよく生活する」ため規範意識やマナーの向上を図り、良好な人間関係を築くことを目的とし、小中学生や保護者を対象に講座を開催しています。



講座のようす

好文塾

市民センター職員とみと好文カレッジ職員の研修事業です。私たちが心豊かに生きていく上で学習する必要のある課題(環境、生命、健康等)を取り扱った講座を市民の方を対象に共同事業として開催しています。

今年度、西部ブロックでは「知るほどに好きになる～意外と簡単! 日本食～」を、常磐市民センターでは「成年後見制度と戸籍のはなし」、渡里市民センターでは「若返り健康塾」の3講座を開催しました。



知るほどに好きになる～意外と簡単! 日本食～
『和食の魅力再発見』

さきがけ塾

私たちの住むまちを笑顔にあふれ、快適に暮らせるような魅^{さきがけ}のまち・水戸のまちづくりについて考えていくことを目的に、学習講座(学習プログラム)づくりを学ぶ2年継続の講座です。

何かを学びたい……。学んだことを実践し、人のために役立てたい人が集う講座です。

現在、さきがけ塾は第3期生が学習しています。募集期間は過ぎましたが定員に余裕があるため引き続き申込みを受付中です。詳しくは、みと好文カレッジのホームページやチラシ等でお知らせしています。

さきがけ塾2年間の流れ

1 年次

さきがけ塾では、学習テーマ別にコースを設定。

1 年次は、水戸市の現況や都市構想を基に水戸の魅力発見、課題の見出し方、学習プログラムの作成の方法等を10月から翌年9月までの1 年間、約20回の講座で学びます。



1 年次まとめ

コース毎にいくつかのグループに分かれ、学習講座(学習プログラム)を作成します。その中からプレゼンテーションで選ばれたコース別の1 講座ずつを「塾生企画講座」として市民対象に開催します。



2 年次

専門的な学習を中心に、1 年次のまとめとして実施した「塾生企画講座」を振り返り、より現実的な学習プログラムづくりを10月から翌年9月までの1 年間約20回の講座で学びます。



2 年次まとめ

コース毎にグループで作成した全部の学習プログラムを「塾生企画講座」として市民対象に開催します。



修了式

出席率が概ね7 割以上の方を修了者と認定し、修了書を発行します。修了者は、水戸市生涯学習サポーターとして登録することができます。



水戸市生涯学習サポーターとは

みと好文カレッジの依頼のもと、行政との協働によりみと好文カレッジや市民センターが主催する、社会の要請に応じる学習講座(学習プログラム)の企画・立案、運営に携わります。

リニューアル オープン

平成26年度、市内に2つの市民センターが生涯学習推進の場として、装いも新たにオープンしましたので、建物の内の概要を紹介します。

見和市民センター（平成26年7月1日オープン）



調理室



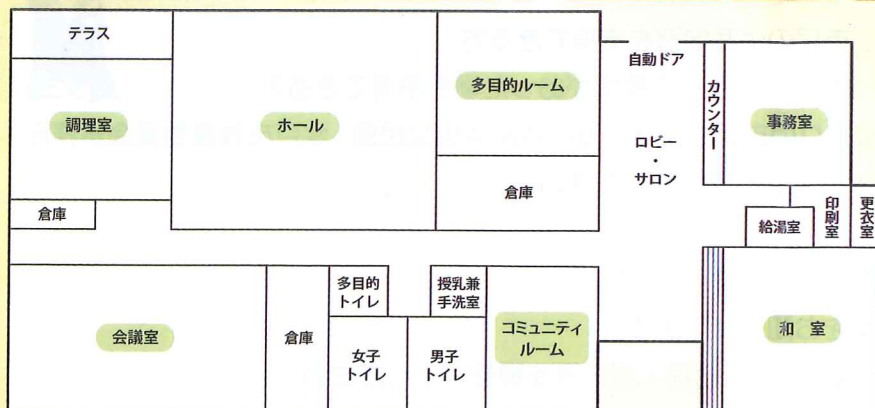
ホール



多目的ルーム

施設の概要

- 名称 水戸市見和市民センター
- 所在地 水戸市見和2-224-1
- 構造 鉄骨造平屋建
- 面積 (敷地) 2952.64㎡
(延床) 854.81㎡
- 工事年度 平成25年度～平成26年度
- 総工費 288,219,000円



ロビー・サロン



会議室



コミュニティルーム



和室



上大野市民センター(平成26年10月1日オープン)



和室



調理室



コミュニティルーム

施設の概要

- 名称 水戸市上大野市民センター
- 所在地 水戸市吉沼町1768-2
- 構造 鉄骨造平屋建
- 面積 (敷地) 2500.03㎡
(延床) 616.20㎡
- 工事年度 平成25年度～平成26年度
- 総工費 232,717,500円



ホール



会議室



多目的ルーム



ホール



倉庫



みと好文カレッジの生涯学習支援制度



みと好文カレッジでは様々な制度を整え、皆様の生涯学習を支援しています。

あなたも師・達人制度

豊かな知識・経験・優れた技術や才能を持つ方を講師や指導者として登録・紹介する制度です。

【登録資格】

- 1 18才以上の方。
- 2 特技や技術・知識を有し、市民の生涯学習を支援できる方。
- 3 有償・無償に拘らず地域やサークルからの要請があった場合指導できる方。



※登録を希望される際には、最寄りの市民センター及び内原中央公民館・水戸市教育委員会事務局生涯学習課及びみと好文カレッジまでお問合せください。

【講師を紹介してほしい】

- (1) みと好文カレッジまでお問い合わせください。
- (2) 講師に関する詳しい情報をお知らせします。
- (3) 講師には、ご依頼者が直接交渉し、日程・謝礼等を調整してください。
- (4) 講師をお願いした場合は、お手数でも、みと好文カレッジまで、結果をお電話でご連絡ください。

育児ボランティア制度

子育て中の親が、生涯学習活動に参加しやすくなるよう、みと好文カレッジに登録している育児ボランティア「えくぼ会」のみなさんが、別室で一時的にお子さんをお預かりする制度です。

講演会などに参加している親はもちろんのこと、お子さんや育児ボランティアのメンバーも一時保育(託児)という時間の中で貴重な経験をし、生涯学習を実践しています。

また、育児ボランティアの応募も随時受け付けています。



学習相談

みと好文カレッジでは、市民の皆様の生涯学習に関する学習相談を受け付けています。

- <例>
- ①パソコンを習える所を探している
 - ②どこかグループで活動できる場所を探している
 - ③昔あそびができる講師を探している等

お気軽にご相談ください。



—みと好文カレッジゆかりの地を訪ねて—



水戸藩藩校 旧弘道館

江戸時代は学問・教育の時代と言われ、全国各地には、藩校・郷校・私塾などの学問・教育施設がありました。これらの学問・教育施設では、読み書き算術といった基礎知識から学術研究を含めさまざまな教育が行われていました。とりわけ水戸藩は学問・教育に熱心に取り組んだ藩として有名です。

水戸藩では、第二代藩主徳川光圀の時代に、国内外から優秀な学者を集めて「大日本史」の編纂事業を遂行することになりました。この水戸藩の一大事業は2世紀半の長い年月を経て明治時代に完成しましたが、その過程でまとまった研究成果は出版物として全国に広まり、他の藩校の教材として採用され、学問・教育の発展に大いに貢献しました。

光圀は「桃源遺事」に、「学問をすることは、人の人たる道、即ち、他の動物とは違う、人としての正しい道を知ることであって、物知りになることではありません。学問をしなければ、正しい人の道を知ることが出来ません。ですから、私は学問の大切さを知らせたいと思い、力を尽く

光圀が望んだ学問・教育の夢 藩校弘道館②

しているのです。」と学問・教育についての思いを記しています。

また、「西山随筆」^{こん}坤・儒学の項に「郷土郷里に学校を建設するということは、模範とすべき古代の国の夏・殷・周三代の規範であって、正しい道の根本となるものであります。人々に書物を講義し、道徳を教え、智恵の光を開花させて行くのは、まさに学校を建設して教育することより大なるものはありません。」と学校建設の重要性を説いています。

光圀の時代には、色々な制約により学校建設には至りませんでした。が、光圀が望んだ学問や教育、学校建設の重要性は、第九代藩主斉昭に引き継がれ、藩校弘道館創設という形で結実しました。

弘道館は、敷地面積54,000坪にもおよび、藩校の敷地としては最大規模を誇り、校舎の配置は建学の精神に基づき独特の工夫がされました。他の藩にも藩校はたくさんありましたが、弘道館の教科は医学、漢学、和学、兵学、天文、数学、地理と多岐に渡り、現代の総合大学の規模を誇っていました。

弘道館へは、15歳で試験に合格した者が入学を許され、40歳まで

出席して、以降は時々登館して修練を絶やさないようにしていました。

今なら高校・大学・大学院を卒業し就職しても生涯にわたり学習する生涯学習の場としての機能を有する機関であり、まさに、みと好文カレッジが推進する生涯学習の「魁」でありました。



徳川光圀 像

引用・参考文献
平成19年度 第24回 水戸学講座
水戸の教育 義公と教育
水戸史学会 但野正弘 著